

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

目次

Preface 巻頭言	
「医系科学研究科長2期目にあたって」……………丸山 博文	1
Greetings ご挨拶	
「就任のご挨拶」……………田中 暁生	2
「就任のご挨拶」……………小川 恵子	2
「就任のご挨拶」……………飯田 幸治	3
「伝統ある医療薬剤学研究室を主宰するにあたって」 ……………内田 康雄	3
Topics 霞クラウドファンディング	
「新型コロナウイルス中和抗体実用化を目指す研究の進捗報告」 ……………保田朋波流	4
My Motto 座右の銘	
「継続は力なり」……………宮内 睦美	5
「出る杭は打たれるが、出過ぎた杭には届かない」 ……………森川 則文	5
Prize Winner 各賞受賞者紹介	
「令和5年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）を受賞して」 ……………久保 達彦	6
「令和5年度 文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞して」 ……………内田 康雄	7
Research Frontline 研究最前線	
「コロナ時代に流体を可視化することにより心臓血管外科学を科学する」 ……………高橋 信也	8
「晩発性放射線被ばく影響の個人差を人工多能性幹細胞と光計測技術で解き明かす」 ……………渡邊 朋信	9
編集後記 ……………高橋 真	10

医系科学研究科長 2 期目にあたって

大学院医系科学研究科長 丸山 博文



このたび、広島大学 大学院医系科学研究科長の2期目を拝命しました。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

今年度は増築された震動物実験施設がいよいよ稼働しました。加えて特設飼養施設（霞部局連絡協議会での承認分限定）による実験も可能となる予定です。これらによってハイレベルな研究が展開されることを大いに期待しています。運用については、ユーザー会で

適宜検討いただきたいと思います。薬学部講義棟のある場所には、広島大学ワクチン・医薬品製造拠点が新築される予定です。霞部局としてバックアップしていく必要があると認識しています。さらに、2025年に放射線影響研究所（放影研）が霞キャンパスに移転することが正式に決定しました。多数の原爆被爆者のコホート検体を有する放影研との共同研究が促進され、放射線ゲノムに関する最先端の総合研究キャンパスとなることが期待されます。

また、霞地区共用研究機器検討WGにおいて、霞キャンパスでの機器の整備状況の把握や、機器のニーズについて調査が行われました。これには広大霞LabSecretaryの情報も貢献しています。ニーズがリストアップされたことにより、必要時に迅速な対応ができるようになります。

今年度から「広島大学における教育・研究施設の有効活用に関する規則」が改正され、東広島キャンパスでは、基準よりオーバーしているスペースへの課金制度がプログラム単位で開始されます。将来的には霞地区にも導入される予定ですので、適切なスペースの利用についてご協力をお願いします。また、電気・ガス料金が値上げラッシュになっており、霞キャンパスでも億単位で支払いが増加しています。研究活動は維持しつつ、可能な範囲での省エネルギーにご協力ください。

COVID-19については、5月から感染症法上の位置づけが2類から5類に変更されました。医療系キャンパスとしては無条件に対応を緩和するわけにはいきませんが、活動自体は活発化していくものと予測しています。

2024年には広島大学創立75周年を迎えます。今年から来年にかけて、霞地区でも記念イベントを実施していきます。皆様からのイベントのご提案をお待ちしております。

最後に、年末年始にかけては各研究室のヒアリングにご協力いただき、ありがとうございました。研究科全体では研究業績は向上しており、今後は質の向上（Q1論文を目指すなど）に努めていただきたいと思います。また、皆様からいただいたご意見を頭に入れながら、適宜・適切な場面で本部に提案をしていきたいと思ひます。

